つづき図書館ファン倶楽部通信 vol.44

2015年・都筑図書館20歳
誕生祭特別号

■発行：つづき図書館ファン倶楽部
■住所：〒224-0053
横浜市都筑区池辺町7003-2-801若杉隆志気付
tel:080-6739-1139
mailto:wakasugi@c06.itscom.net
■ http://tsuzuki.libraryfun.net/
■年会費:一口1,000円 ■定例会:月一回

■つづき図書館ファン倶楽部は
2000年３月都筑区制５周年記念として都筑図書館が「シンポジウム」を開催。参加した区民サポーター有志で図書館の価値を広める目的で結成しました。

図書館で知の旅へ

長野ヒデ子：絵

図書館と私

『野毛の図書館』

横浜市中央図書館長
山口 隆史

私の勤務する横浜市中央図書館は、都筑図書館開館の1年前に竣工しました。ちょうど横浜ランドマークタワーが出来たころです。古くから横浜にお住まいで、４０代後半から上の年代の皆さんは、建替える前の図書館のことを覚えていると思います。東海道と港を結ぶ横浜道「野毛の切り通し」の辺に、昭和２年に開設されました。

関東大震災で、横浜公園内にあった図書館が蔵書と建物すべてを失った後、先人は由緒あるこの地を選んで図書館を再建し、震災記念館を別館として併設しました。災害のことを忘れない、貴重な資料を２度と毀損しまいという気持ちが感じられます。

「野毛の図書館」は昭和２０年５月の横浜大空襲にも倒れることなく、戦後も親しまれ続けました。私たちの世代にとっては「床がギシギシなってお化けが出そう」「歓楽街を抜けた先にあって目のやり場に困る」などと文句をつけながらも、思い出とともに記憶に刻まれた場所でした。

都筑図書館の20周年関連行事のお知らせ

“本＋音＋楽” ライブラリーナイト
～都筑ゆかりの音楽家の演奏と本にまつわる司書の話～
日時：４月２４日(土)１９：１５～２０：４５
第１部　コンサート奏者：牧千恵子氏（バイオリニスト）
　　岩室晶子氏（作・編曲家）
第２部　司書によるリレーブックトーク
会場／都筑図書館(閉館後)
定員／当日先着４０名(定員を超えた場合は立ち見も可)
入場／無料　飲み物持ち込み可

講演会　講師:吉原高志氏(ドイツ児童文学者)
『異文化としての子ども～子どもの本をとっかかりとして』
ドイツの絵本『もじゃもじゃペーター』からミヒャエル・エンデの『モモ』まで児童文学に登場する”いたずらっ子”について
日時／４月25日（土）午後１時30分～３時
会場／都筑区役所６階大会議室
定員／先着60人
申込／受付中。都筑図書館電話またはカウンターへ
共催／都筑区役所

都筑図書館・二十歳の展示会
～都筑図書館の20年間の歩みをご紹介～
期間／４月24日（金）～４月30日（木）
会場／都筑区役所区民ホール

苗木プレゼント！
～都筑区の木「やまもみじ」ブルーベリーの苗木～
日時／４月25日（土）午前10時より
会場／都筑区役所区民ホール
定員／先着150名　（なくなり次第終了）

缶バッジを作ろう！
日時／４月25日（土）午前10時～11時30分
会場／都筑区役所区民ホール
対象／中学生以下
定員／当日先着50名

長野ヒデ子資料展
都筑民家園のイベント「長野ヒデ子さんとあそぼう」と協力して長野ヒデ子さんの著作を展示します。
期間／５月12日（火）～６月８日（月）
会場／都筑図書館

子ども読書の日特別おはなし会
市民グループ「ラビットさんおはなし会」のおはなし会
日時／５月16日（土）11時～
会場／都筑図書館対面朗読室
対象／一人でおはなしが聞ける子
先着／20名　　協力／つづきっこ読書応援団

都筑図書館　〒224-0032市内都筑区茅ケ崎中央32-1　TEL:948-2424　FAX948-2432
http://www.city.yokohama.lg.jp/kyoiku/library/chiiki/tsuzuki/

〈つづき図書館ファン倶楽部のネットワークもよおしのご案内〉

つづき図書館ファン倶楽部は図書館と協働して様々な活動をしていますが、
その他の団体とも協働して、本を核にした楽しい催しをすすめています。
みなさん、どうぞご参加を～！

長野ヒデ子さんの原画展
６／５(金)～７日(日)10:00～16:00まで
「おばあちゃんがおばあちゃんになった日」「外郎売」他
場所：都筑民家園ナカの間・オクの間

都筑民家園花あそび
長野ヒデ子さんとあそぼう
2015年
６／５(金)～７(日)
主 催
都筑民家園
長野ヒデ子さんとあそびタ～イ
協力：都筑図書館、つづき図書館ファン倶楽部、つづきっこ読書応援団、つどおうJiJi･BaBa隊、わらべうたわらしっこの会、ＹＴＭ有志の会、外郎売の口上研究会、紙芝居文化推進協議会

5日（金）
長野ヒデ子さんとわらべうた＆あかちゃん絵本
①あかちゃん（0～1歳）とわらべうた・えほんであそぼう～！10:30～11:00
要申し込み：0～1歳児と保護者:15組

②2～3歳児とわらべうた・えほんであそぼう～！11:10～11:40
要申し込み:2～3歳児と保護者:15組

③長野ヒデ子さんのトークショー
11:40～12:10
50名（無料・当日先着順）

④長野ヒデ子さんのサイン会
12:30～13:00
協力:わらべうたわらしっこの会

お申し込みは・・・
都筑民家園
受け付け開始
5月12日(火)9:00～
電話または直接
tel: 045-594-1723

同時開催
お茶室カフェ
5日(金)～7日(日)10:00～16:00
参加費300円～　　当日直接

6日(土)
長野ヒデ子さんと紙芝居
①紙芝居の実演・競演
13:00～14:00　無料
②長野さんのおはなし
「紙芝居はおもしろいよ」
14:15～15:00
要申し込み：50名
参加費：300円（茶菓付き）
対象：５才以上
③サイン会　15：00～16:00
協力：神奈川県紙芝居文化推進協議会
つづきっこ読書応援団

7日（日）
まるごと長野ヒデ子さんといっしょ！
①「長野ヒデ子さんのおはなしと外郎大会」
13：00～15：00
外郎売の口上研究会(小田原)のみなさん他
参加費：1000円（高校生以上）
300円（５才～中学生）
※秀方さんの手作りお菓子とお茶付き
要申し込み：定員70名
②サイン会　15：00～16:00

あなたは横浜という街の歴史を知っていますか？

山崎洋子
「花園の迷宮」江戸川乱歩賞
小説・脚本多数

「横浜市民だもの、知ってますよ、それくらい！ペリーが来て開港したんでしょ？関東大震災や横浜大空襲があったんでしょ？」と、おっしゃるかもしれません。

でもじつは、あなたの知らないドラマが、横浜には無数に隠されています。「まさか！」「うそ！」「WHY？」というサプライズだらけです。

今年はぜひ、私と一緒に「不思議の街・横浜」へ迷い込んでみませんか？

つづき図書館ファン倶楽部通信43号より

※昨年11月、山崎洋子さんの講演会「“孤児のアン”から作家に」が都筑区役所で開催され大きな感動を呼びました。それがご縁でつづき図書館ファン倶楽部のメンバーになり、「もっと横浜のことを知って」というご希望が、北山田地区センター主催で実現の運びになりました。どうぞ、この機会にあなたもご一緒に**迷い込んで**はいかがでしょう。

平成27年度北山田地区センター自主事業
講演と散策の二本立て
あなたの知らない『ミステリアス横浜』
～つづき図書館ファン倶楽部との協働企画～

■山崎洋子先生の講演
6月13日(土) 13:30～15:30
北山田地区センター小・中会議室
■横浜シティガイド協会による横浜巡り散策
6月20日(土) 10:00～12:30
日本大通り駅改札横広場集合(現地解散)

お申し込みは・・・
参加費：600円(2回分)
定　員：50名
申し込み：5月13日(水)～(先着順)
申込先：北山田地区センター電話又は窓口で
電　話：045-593-8200

祝
都筑図書館20周年
つづき図書館ファン倶楽部メンバー と 都筑図書館職員 の このごろ の こころ

次の課題　伊藤紀久子

ファン倶楽部の代表だった間、懇談会や委員会の委員になったり、市長や区長と懇談する機会を得たりすると、必ず学校図書館のことを訴えてきた。学校図書館を横浜市の図書館ネットワークに組み込むことによって、子どもと教職員には全域サービスができるから。今、学校現場で聞くと子どもたちが驚くほど市の図書館に行ったことがない。学校司書配置の次は図書館としての連携を！今、まさにスタートライン。25周年にはぜひ実現を～！

十年ひとむかし　洪順仙

巨大迷路があったとさ。いつのまにかその場所に区役所が生まれ、その片隅に図書館も生まれ、以来いつも老若男女ひしめいている横浜一のにぎわう図書館になりました。成人を迎えた都筑図書館様。子育て真最中のあの頃を経て、今は老老介護の私ですが、どうぞこれからも人生の総合案内役、そして何よりも心の糧を提供する場所として成長し、進化していくことを切望いたします。

「図書館であそぼ！」が私の終着駅。

井上ひさし作校歌　長野ヒデ子

釜石小学校の校歌♪いきいきいきる　いきいきいきる　ひとりでたって　まっすぐ生きる　こまったときは　目をあげて　星を目あてに　まっすぐ生きる　息あるうちは　いきいき生きる　はっきり話す　はっきり話す　びくびくせずに　はっきりはなす　困ったときは　あわてずに　人間について　よく考える　考えたなら　はっきり話す　しっかりつかむ　しっかりつかむ　まことの知恵を　しっかりつかむ　こまったときは手を出して　ともだちの手を　しっかりつかむ　手と手をつないで　しっかり生きる♪　ね！20周年にぴったりの言葉でしょう！

本を読むって楽しい！　三田律子

子どもの読書活動を応援するのは、大人にとっての頭の良い子を増やしたいとか、感受性がどうとかってことじゃないと思う。本の世界って楽しいんだよ！映像や音も完全オリジナルな頭の中の物語の世界！それを感じるチャンスを、子ども自らが掴むための、お手伝いをしているって思っている。そのチャンスの場所は、家の本棚、書店、学校、そして図書館。本とそれをつなぐ大人がいなきゃ、チャンスが逃げちゃうよ！！だから、がんばれ図書館！

地形図はたのし　麻生耕平（司書）

「昔の地形図を見たい」という問合わせを、年配の方から学生さんまでよく受け付けます。書庫から出したはいいものの、「はて、どこが今のどこやら？」と、利用者さんと一緒に首を捻ることが配属当初はありました。けれど新しい年版から遡ってみると「まだこの辺は宅地造成中なんだ」「そういえば国際プールができたのはこの年か」といった風に、街の変遷が見えてきます。今は地形図の面白みを感じながらご案内できるようになりました。

ライブラリー・パブ　館長　小山　肇

例えば、バーボンを含みながらハードボイルド小説を読む。スコッチでも合うかもしれない。ジャズなどが流れる薄暗いカウンター席が良いだろう。或いは、ロゼかドンペリでハーレクインの恋愛小説を読む。木漏れ日のあたるテラス席でボサノバが似合うだろう。でも一番は、ホヤを肴に浦霞の冷酒で椎名誠を読む。居酒屋のカウンター席で主人のブックトークを聞きながら椎名誠を読むのがお気に入りだ…って、こんなライブラリー・パブが何処かにないかしら？

ぽかんのひろば　江幡千代子

「ほら、また外ばっかりみてる」。小さい時の私のあだなはぽかんさん。図書館こそぽかんの場だ。ものすごいパワーを秘めた本たちが、しかし控えめに出番を待っている。この粋な「間」がいい。回遊しながらその自由に浸るのが好き。１５年間も続いているファン倶楽部のメンバーも、どっかぽかんさん達だ。いよいよ私もぽかん時間が増える歳になって来た。だからみんなおいでって誘えるような、もっと広～い広場のような図書館、あったらいいな。

最近の読書タイム　坂部仁子

独身の頃は本をずっと読んでいたけど、結婚して子どもが生まれて、本を読める時間が無くなった。子どもが大きくなると、仕事を始めたりして、また時間が無くなった。でも、最近始めた仕事、通勤時間が１時間以上かかる。ちょっと遠いところで不安だったけど、電車に乗っている時間が長いので、本が読める！本に夢中になると乗り過ごしてしまうのが怖いので、まだ小説は読んでいないけど、これからは帰りは小説読もうかな。都筑図書館へ借りに行こう！

ブックマップ完成！　上田佳子（司書）

都筑区では、区内の読書に関する施設を手描きでまとめた「本のあるまちつづきブックマップ」を作成しました。手描きマップは私の隣席の司書の力作です。読書施設だけでなく、都筑の名所もイラストで紹介しています。いくつ分かるかな？マップは都筑図書館や区民利用施設で配布中。区内には図書館以外にも、のある場所がいっぱい。マップを見てお気に入りの場所を見つけてください。分からないイラストがあったら、図書館で声をおかけください。

風が吹いてくる？　清水ますみ（司書）

思想家で武道家の内田樹氏の著作で見覚えたと思うのだが、武道家は居着きを嫌うという。瞬時の状況に対峙するためか、と思う。武術の心得はないけれど、先が見い出せなくて回遊魚のようにぐるぐる逡巡してしまうことはある。そんな時でも、ふとその世界に引き込まれ、居着いた自分を忘れてしまうような本や物語がある。すぐに扉が見つからなくても、爽やかな風を感じて、ほのぼの緩み元気が湧きだしてくる。私の大事な手立ての一つとして、読書がある。

歴史本が好き　清瀬喜美

読書は、新しい知識とともに刺激も与えてくれます。暇を見つけては読みあさっている歴史関係の本ですが、それは今に繋がっていると実感します。先日の４月８日は急に気温が下がり大変な思いをしましたが、中世にも異常気象の時期があったそうで、現在の暦で７月末に雪が降ったり、秋冬に桜が咲き筍が生える始末。稲も麦もまともに実らず飢饉となったそうです。過去のことが現代にもきっと起きる、歴史の本は興味が尽きません。

図書館って本って　高原和樹

たった一回しかない人生で、色んな生き方を学ぶにはどうしたらいいのだろう。自分に適した生き方ってどんなだろう。人に学ぶことも選択肢だと思うけれど一万人と仲良くなるのは難しい。だけど一万冊の本を知ることならばできる。図書館って自分にとってはそんな場所。情報が錯綜している世の中で、沢山の本を通して自分の生き方を確認できる。そしてどんな生き方でも良いのだと思い出させてくれる場所。

夢の足がかり　原田紗弥佳

バカであることを恐れてはいけない。今はそう強く思う。考える力に難がある私だけど、好奇心は健常と変わらない。

図書館は学ぶ意欲のある者の味方だ。プライドと恐怖で塞ぎこんでいた私は、かつて大好きな児童書を毎日借りた親しみある図書館の縁で明るくバリバリ活動する魅力的な人々と出会い、モノの見方が変わった。そうか、あの頃から20年も経つのか…知り学ぶ楽しみをこれからも増やしていきたい。私の夢の足がかりになると信じて。

図書館が大好き！　森　由紀

図書館で働き始めて32年になる。最初の仕事から転職して司書になった今でも、図書館で働けることをしみじみ幸せだと思う。いつも、もっとたくさんの人に図書館を使ってもらいたいと願って仕事してきたが、つづき図書館ファン倶楽部に一市民として参加したことで、視野が大きく広がった気がする。「利用する人と運営する人が一緒に育てていく図書館」。なんて豊かで心強く、ワクワクする図書館の在り方だろう！ファン倶楽部からたくさん元気をもらっている。

知る愉しみ　尾崎知栄（司書）

先日、ご当地検定「かながわ検定・横浜ライセンス」に受けてきました。事前に横浜の歴史などを勉強する中で、私が住んでいる家の近くの武道館は戦後接収されていたこと、関内は高架の高速道路が作られる予定があったけれど景観などを考慮し地下に埋められたことなど…普段何気なく見ていた風景の中に歴史が刻まれていたことを知ることができました。合否はというと…来年リベンジします(笑)。また来年も知る愉しみを味わえると思えばよかったかも？

初めての日々　杉山ひこの（司書）

去年、中央図書館から都筑図書館に異動でやってきました。私にとって、この1年は初めてづくしでした。前の職場では、子どもと接点がなかったので、読み聞かせはドキドキでした。混雑のあまり、館内へ迷子の放送をかけるなんて予想外でした。お客様との距離も中央図書館とは、なんとなく違います。担当業務も変わり、毎日が勉強です。そんなたくさんの初めての中に「開館20周年事業」が入っていることが嬉しいです。

ひととまちの図書館　黒須正明

20周年おめでとうございます。平成25～26年館長の黒須です。未来を描く協働の会が発足し20周年記念事業の企画がスタートした時期でもありました。20年の歩みはまさに　都筑の人と街がつくってきた都筑図書館だったと思います。これからも都筑のキャンバスに何が描かれていくのかとても楽しみです。

読書の力　田中　肇

私たちは本を読むことによりたくさんの人生を体験し、そして様々な表現や語彙を学ぶことができます。そして学んだ語彙の豊富さが、あなたが話す時に、議論する時に、そして発表する時に、自然に創ることなく言葉となって紡ぎ出されてきます。それが読書の力です。私はビブリオバトルで本の紹介をして楽しんでいますが、そんな時に、語彙が豊富だともっと上手く表現できるのではないかと実感しています。侮れないぞ、読書の力！

横浜丘の手文化を　福富洋一郎

春になると桜が一斉に咲くのがうれしい。冬の間は地域活動が重なり大変忙しかった。2年前から始めた子ども達への読み聞かせ活動はエネルギーをもらえて楽しく、疲れが吹っ飛ぶ。27年前に世田谷から港北ニュータウンに引っ越してきた時を思いだす。区役所付近は何もなかった。図書館が出来たお蔭で、都筑の歴史をたどることができる。人口も急増し、まちじゅう若い人があふれている。次世代に「横浜丘の手」都筑の良さを伝えたい。

推理小説　吉村陽子

最近本をあまり読まない。でも久しぶりに推理小説を読んだ。なんだか感性が鈍っているのか、あまりワクワクしない。文章を理解する能力も無くなってきているようだし、覚えが悪いから誰が誰だかわからなくて読み返す。読書はやっぱり習慣かなあ。がんばって読んでると、少し小説の世界に入れた気がした。また違う本も読もうか。都筑図書館の本を全部読みました、という様なすごい人はいるのかなと、ちらっと思った。

15年ぶりに帰ってきました。　加納邦子（司書）

２０年前の4月、あれこれ相談しながら都筑図書館の開館準備作業をし、4月25日に緊張のなか最初のお客様をお迎えしたのがまるで昨日のことのようです。上海を含めあちこち放浪して15年ぶりに戻ってきましたが、当時の偉大なる先輩方の年齢をとうに過ぎたというのに、増えたのは経験ではなく体重だけという情けない有様…(トホホ)。ただ都筑図書館在籍時の資料を結構保存していたので、周年事業で役に立てた事だけが良かったかも。

お勧めって難しい　高橋宏子（司書）

図書館のカウンターにいると、「お勧めの本は?」と聞かれることがあります。毎日大量の本が出版され、どれが面白い本かわからない、という方からのご質問です。でも、これは、とても難しい質問です。その方の好み、読書歴が分からないと、何をお勧めしてよいかわからないからです。また、多くの方が「面白い」と思っても、その方にとって面白いかどうかは分かりません。この質問をお受けすると、いつも悩んでしまうのです。

変わる！　草野雄治

学生達が勉強している。大人が調べ物をしている。子供がママに本を読んでもらっている。図書館でよく見かける景色である。それが変わって見えてきた。街の歴史を語り、読書施設マップを作り、子供達への読み聞かせを行い、ビブリオバトルを実施する。図書館の司書の皆さんと区民の仲間と共に都筑図書館から新しい未来を描こうという。そう、図書館が変わる、そしてなによりも自分が変わる。つづき図書館ファン倶楽部に参加して。

広い庭のあるカフェ　中村葉子

20年ぶりに会った知人は、マクロビオテックのレストランをやっていた。食材に生産者の顔が見える物を使い、食べ物一つ一つにつながりが感じられた。梨木香歩著『雪と珊瑚と』の珊瑚の人生は、世間的に見たら失敗の人生だ。けれど、くららさんに出会い、無農薬野菜を作っている若い農家や美大生とつながり、広い庭のあるカフェを始める。メニューのおかずケーキや体が弱っている時に飲む大根スープはいい。丁寧なくらしを大事にしたい。

生きるための図書館　溝井正美

身近にある公共施設といえば図書館、と大抵の人が思いつくだろう。あまりにも当たり前にあるが故にその大切さが認識できないのではないか―ここ5年ほど図書館の存続、サービスの在り方について考える活動に加わって感じていることである。かつて生きづらさの極みに達した中で、それでも立ち直れたのは図書館のおかげ。先人の知恵や体験を無料で学べる図書館には「希望」が詰まっている。さらに多くの人がそれを知り、図書館を応援して欲しい。

居場所は図書館から　若杉隆志

居場所づくりはそう簡単なことじゃない。そんな中で図書館は居場所になる特徴がある。誰にでもオープンで、長時間居てもいい。選別しない、価値をはからない。みんなそれぞれのスタイルで本を読んでいるから一人でも大丈夫。人と会話をしたくなったら司書に本の相談ができる。多くの本や雑誌などから自分と違う考え方を知ることができる。特に目的がなくともかまわない。これを活かさない手はない。そして思いがけない出会いや発見がきっとある。

20年前って言ったら‥　小山亜紀子（司書）

横浜市の職員になって2年が過ぎたところ（年がばれる？！）。移動図書館はまかぜ号に乗って荏田の鴨池公園や川和の公園に本を運んで貸出をしていました。公園に行く途中、地下鉄の駅が米粒ほどしか見えない距離から「あれが市営地下鉄だよ」と言われたのを覚えています。それだけ何も建物がなかったということですね。今では、たくさんのビルがそびえ建ち、それがどこから見ていた光景だったのか?さっぱりわかりません。

猫と鼠の都筑図書館　谷脇静香（司書）

「みゃーご」と「ちゅーず」が都筑図書館にお目見えして早5年。職員みんなでワイワイ言いながらキャラクター案を考えたり、日々投函される山盛りの投票用紙をカウントしたりしたのは楽しい思い出です。5年前と比べて2匹ともどんどん丸くちっちゃくなっているのは、書き手の私に似てきてしまったのか、はたまた単なる画力不足か…。これからも2匹は都筑図書館の色々なものに出没しますので、どうぞあたたかい目で見てやってください。